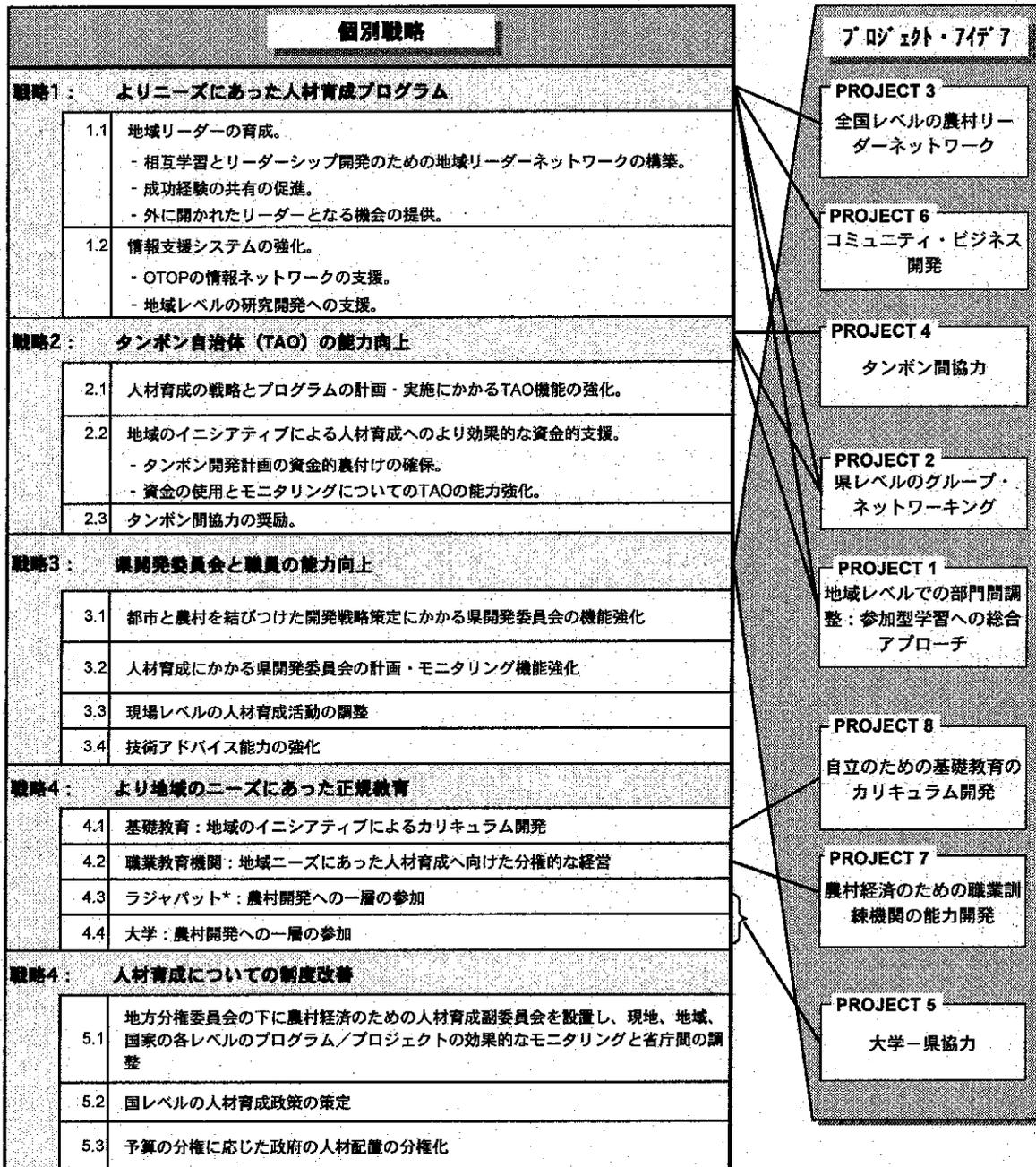


5.3 行動のための枠組み

前節で提示された戦略に基づき、行動のための個別戦略を提示する。各戦略に対応する優先度の高いプロジェクト・アイデアも示している。現在、政府の地方分権化がすすみ、県の開発委員会に大幅な権限が移譲される。これにより県政府がこれら戦略とプロジェクトの計画と実施の中心的な役割を果たすことになる。

表 5.3.1 個別戦略とプロジェクト・アイデア

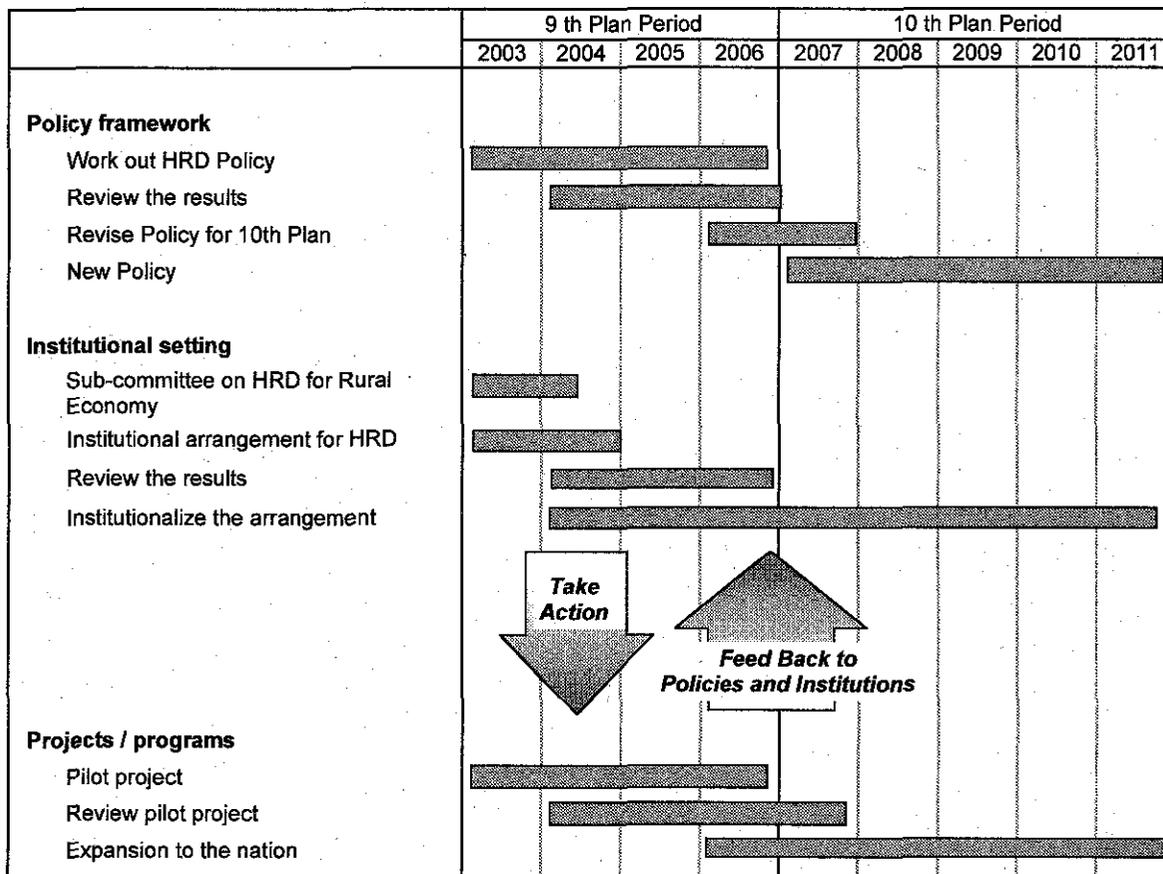


注：ラジャバット：教員養成大学。

これらの戦略は組織制度の見直しと実際のプロジェクト/プログラムからなっている。新しい政策、法律、組織などの新しい組織制度が構築されても、新しいシステムが内部化されて実際に運営に移されるのは困難が伴う。実際の行動のためには、システムのテストランが必要

である。パイロット・プロジェクトが実施されこれらの結果がレビューされ、そして地域や全国に波及してゆき、また、政策や組織制度にフィードバックしてゆく。これらは次表に示される。

表 5.3.2 行動への時間的枠組み



第6章 プロジェクト・アイデア

ここでは優先度の高いプロジェクト・アイデアを提案する。これらのプロジェクト・アイデアは前章の6つの新しいアプローチに合うものとして選択された。

提案するプロジェクト・アイデアは下表に示される。下表に示す通り、これらのプロジェクトは様々な人々の人材育成ニーズに対応している。政府の地方分権化政策により、県の開発委員会が大幅に権限を与えられ、これがプロジェクトの実施機関となる。

表 6.1.1 プロジェクト・アイデアと対象者

No.	提案するプロジェクト	対象となる人					
		リーダー	将来のリーダー	TAOs	県	ファシリテーター	教育機関
Project 1	地域レベルでの部門間調整：参加型学習への総合アプローチ	X		X	X	XX	
Project 2	県レベルのグループ・ネットワーク	XX		X	X	X	
Project 3	全国レベルの農村リーダーネットワーク	XX			X		
Project 4	タンボン間協力	X		XX	X		
Project 5	大学-県協力	XX	X		X		XX
Project 6	コミュニティ・ビジネス開発	XX			X	X	
Project 7	農村経済のための職業訓練機関の能力開発		XX		X		XX
Project 8	自立のための基礎教育のカリキュラム開発		XX		X		XX

Note: X denotes that the project addresses the HRD needs of corresponding actors.

XX denotes that the project addresses the HRD needs of corresponding actors significantly.

各プロジェクト・アイデアの枠組みは以下の通りである。

表 6.1.2 プロジェクト一覧

No.	提案するプロジェクト	目的	プロジェクトの内容と活動
Project 1	地域レベルでの部門間調整：参加型学習への総合アプローチ	<p>地方行政の能力を向上する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - TAOの人材育成プログラムを計画・実施する能力 - 県政府の人材育成プログラムをモニタリング、調整する能力。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人材育成プログラムの実情調査。 2. タンボンの人材育成のニーズアセスメント。 3. タンボンにおける参加型学習によるパイロット人材育成プロジェクトの実施。 4. パイロットプロジェクトのモニタリングと評価をして、プロジェクトを他の地域への展開、人材育成政策にフィードバック。
Project 2	県レベルのグループ・ネットワーク	<p>農村リーダー間のネットワークを強化し、情報と経験の共有・交換を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農村グループの実態調査により成功グループを特定。 2. 研修ニーズの評価を行い、システムティックな研修ニーズ評価方法を策定。 3. 人材育成活動の促進。 4. 活動のモニタリングと評価を行い、プロジェクトの他地域への展開と政策へのフィードバック。
Project 3	全国レベルの農村リーダーネットワーク	<p>全国リーダー協会を設立し、農村リーダーを育成する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成功経験と情報の交換。 2. 農村リーダーネットワークの構築。 3. 農村リーダーへの研修実施。 4. アセアンや日本のリーダーとの経験の交流。
Project 4	タンボン間協力	<p>人材育成プログラムのタンボン間協力により、人々とTAOの能力向上を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近隣のタンボン間の協力による人材育成基金を設立。 2. 参加型で人材育成プログラムを計画。 3. タンボン間協力による人材育成プログラムを実施。 4. 人材育成プログラムの結果をレビューに基づく、プログラムの改善と他地域への展開。
Project 5	大学-県協力	<p>大学が農村開発に参加するシステムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 人々に高等教育と技術アドバイスをする。 - 学生に農村開発の興味を持たす。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存の大学と農村のプログラムをレビュー。 2. 大学と県のパイロットシステムを作成。 3. 大学と県は次のような協力プログラムの提案を作成。 (1) 学生が人々と農村について学ぶカリキュラム。 (2) 人々のためのコミュニティカレッジ。 (3) パイロットプロジェクト 4. これらのプログラムへの資金・技術支援。 5. プログラムのモニタリングと評価に基づく、農村開発に貢献する大学ランキングの作成並びにシステムの改善と更なる展開。
Project 6	コミュニティ・ビジネス開発	<p>コミュニティ・ビジネスの経営と販売力を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - コミュニティ・ビジネス・リーダー育成のパイロットプロジェクト - OTOP 振興についての県の戦略策定。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・ビジネスと人材育成ニーズのレビュー。 2. 県のコミュニティ・ビジネス開発戦略の策定。 3. コミュニティ・ビジネス・リーダー育成のパイロットプロジェクト実施。 4. パイロットプロジェクトのモニタリングと評価。 5. 評価結果のプログラムの改善と他地域への展開へのフィードバック。
Project 7	農村経済のための職業訓練機関の能力開発	<p>職業訓練機関に地方分権的な経営システムを導入し、地域のニーズにあった人材育成を図り、将来のリーダーを供給する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業訓練機関のニーズ評価と分析。 2. キーパーソンの研修。 3. 改善戦略の策定。 4. パイロットプロジェクトの実施。 5. パイロットプロジェクト結果のレビューによる戦略の改善へのフィードバック。
Project 8	自立のための基礎教育のカリキュラム開発	<p>地域に則した基礎教育のカリキュラムを開発し、将来のリーダーの基礎を作る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現状のレビューと分析。 2. カリキュラム開発のキーパーソンの研修。 3. 地域によるカリキュラム開発。 4. カリキュラムを適用するプロジェクトを実施。 5. プロジェクト結果のレビューとカリキュラム改善システムの全国への展開。

Project 1 地域レベルでの部門間調整：参加型学習への総合アプローチ

プロジェクトの枠組み	
上位目標	地方行政の能力が改善され、地域リーダーを育成するより良い人材育成プログラムを提供し、農村経済の発展に寄与する。
プロジェクト目標	<p>地方行政の能力が向上され、独自の人材育成プログラムが開発・改善され、地域リーダーのネットワークが強化される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人々と TAO の独自の人材育成プログラムの計画、実施にかかる管理能力と技術能力が強化される。農業、ビジネス、行政の地域リーダーネットワークの強化される。 2 各機関による人材育成プログラムに対する県政府のモニタリングと調整能力が強化される。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 TAO の人材育成プログラムを計画・実施する能力が向上される。 2 TAO 独自の人材育成計画が開発される。 3 県政府の人材育成プログラムをモニターし調整する能力が向上される。 4 部門間の調整が改善する。 5 農村の人々の能力が向上する。地域リーダーのネットワークが強化される。
活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 JICA 調査の主な成果と提案をレビューする。 2 県における既存の人材育成プロジェクトの目録を作成する。 3 県の全てのタンボンの人材育成ニーズの調査を行う。 4 選ばれたタンボンで参加型学習方式の人材育成プロジェクトのデモンストレーションを計画、実施する。 5 デモンストレーション・プロジェクトの成果をモニタリング、評価し、国家の農村の人材育成政策にフィードバックする。
外部投入	実証型開発調査のうな専門技術者と研修機会の供与を行う技術協力の可能性を検討する。

Project 2 県レベルのグループ・ネットワーキング

プロジェクトの枠組み	
上位目標	農村グループネットワークが設立され、農村の人々の能力向上が図られ、農村経済の振興に寄与する。
プロジェクト目標	グループ間の農村ネットワークが強化され、情報や経験が共有される。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 農村ネットワークが強化される。 2 農村グループ間の経験の共有が促進される。 3 農村グループの能力が開発される。
活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 農村グループの目録を作成する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 既存の農村グループの基礎データを収集し、活動の種類と発展レベルにより分類する。 (2) これらのグループの活動状況を分析し、3レベルに分類する：先進、普通、後進グループ (3) 様々な活動の先進グループや成功グループとそのリーダーの情報を整理する。 2 研修ニーズアセスメントを行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 成功グループの情報を後進グループに普及する。 (2) 各農村グループの研修ニーズを特定するシステムティックで効果的な方法を作成する。 3 政府機関により人材育成活動を促進する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 必要な支援を行う。例えば、リソース・パーソンの提供、教材、視察旅行、集会所など。 (2) 農村グループの人材育成活動への要望の取りまとめとアレンジをする。県政府が県の開発委員会の下で調整する。 4 プロジェクトの成果をモニターリング、評価する。 5 既存の農村グループのネットワーキング活動の現状と成果をレビューする。
外部投入	実証型開発調査のような専門技術者と研修機会の供与を行う技術協力の可能性を検討する。

Project 3 全国レベルの農村リーダーネットワーク

プロジェクトの枠組み	
上位目標	農村の人々に交流の機会とシステムティックな成功経験へのアクセスを提供する。これにより、農村リーダーと若い潜在リーダーに自信と動機、知識と広い視野を提供し、農村経済を担うリーダーを育成し、農村経済の発展に寄与する。
プロジェクト目標	<p>以下を目的とした全国レベルの農村リーダー協会を設立し、各種レベルの農村リーダーを支援し、農村リーダーの育成を図る</p> <p>(1) グラスルーツ・レベルの農村リーダーの間で農村開発の経験を共有し交換する。</p> <p>(2) 農村リーダーの間でネットワークを構築する。</p> <p>(3) 農村開発当局に対する提言を行う。</p> <p>(4) 農村リーダーへの研修を行う。</p> <p>(5) アセアンや日本との経験の共有を行う。</p> <p>(6) 農村リーダーシップの強化を行う。</p>
成果	<p>1 全国レベルの農村リーダーネットワークが設立される。</p> <p>2 農村リーダーの間で成功経験や情報が交換・共有される。</p> <p>3 研修や情報交換により農村リーダーの能力向上が図られる。</p> <p>4 アセアンや日本の農村リーダーと経験や情報の交換が行われる。</p> <p>5 国際的な視野を持つタイを代表する農村リーダーが育成される。</p>
活動	<p>1 現在の成功例と経験を共有するシステムをレビューする。</p> <p>2 様々なレベルの農村リーダーの間で経験を交換・共有するシステムがつくられる。</p> <p>(1) 農村開発経験を収集する。</p> <p>(2) 農村リーダーの良いコンピタンスの経験を共有・交換する。</p> <p>(3) 農村開発賞、農村リーダー賞の競争のプラットフォームをつくる。</p> <p>(4) 農村リーダーの間でネットワークの構築を奨励する。</p> <p>(5) アセアンと日本の農村リーダーとの間で農村開発経験を共有する。</p> <p>(6) 農村開発当局に提言を行う。</p> <p>(7) 農村リーダーへの研修を企画し実施する。</p>
外部投入	ASEAN と日本の農村リーダーとの経験共有のための専門技術者を提供する実証型開発調査のような技術協力と資金協力の可能性を検討する。

Project 4 タンボン間協力

プロジェクトの枠組み	
上位目標	共同人材育成プログラムを通じ、TAO の能力を強化し、市民に対しより良い人材育成サービスを提供することにより、農村の人々の能力向上を図る。
プロジェクト目標	<p>1 下記を目的とするタンボン間協力により、共同人材育成プログラムを実施する。</p> <p>(1) ビジネス技術など人々のニーズに応じ、農村の人々の能力向上を行う。</p> <p>(2) TAO リーダーと職員の行政業務実施能力を向上する。</p> <p>2 共同人材育成プログラムを実施を通じて、TAO の人材育成プログラムの計画、実施能力を向上させる。</p> <p>3 共同人材育成プログラムを実施からの教訓を学び、プログラムのさらに広い地域や他の地域への波及を図り、制度化する。</p>
成果	<p>1 農村の人々が夫々のニーズに応じて訓練される。</p> <p>2 TAO リーダーと職員が行政業務をできるように訓練される。</p> <p>3 TAO リーダーと職員が人材育成プログラムを計画、実施できるように能力向上される。</p> <p>4 共同人材育成プログラムの経験から、さらなる他の地域への波及が図られる。</p>
活動	<p>1 共同人材育成ファンドを設立する。</p> <p>2 人々の需要を参加型プロセスにより把握し、人材育成プログラムを計画する。</p> <p>3 共同人材育成プログラムを農村の人々に対し実施する。</p> <p>4 共同人材育成プログラムを TAO リーダーと職員に対し実施する。</p> <p>5 プログラムの後に人材育成プログラムの結果をレビューする。</p>
外部投入	実証型開発調査のような専門技術者と研修機会の供与を行う技術協力の可能性を検討する。

Project 5 大学-県協力

プロジェクトの枠組み	
上位目標	農村の人々に外部の人との交流と高等教育の機会を与え、農村リーダーと若い潜在リーダーに動機付け、知識と広い視野をもたらし、農村の人々の人材育成をし、農村経済の発展に寄与する。
プロジェクト目標	<p>大学が農村開発の研究と教育に参加するシステムを作る。</p> <p>(1) 農村の人々に技術指導と知識を提供する。</p> <p>(2) 農村の人々が問題を解決するための高等教育に接する機会を与え、とうに、子どもと若者が高等教育に接して知的刺激を得て将来を肯定的に考えるようになることを奨励する。</p> <p>(3) 農村の人々が高等教育に参加し、彼らの知的レベルを向上させる。</p> <p>(4) 大学の教官や学生が農村の経済を学習し振興を考えること奨励する。</p>
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学と県の協力システムができる。 2 農村の人々が、問題が起こったときにアドバイスを受けるために、大学にアクセスできるようになる。 3 農村の人々が農村内で高等教育にアクセスできるようになる。 4 大学の教官と学生が農村開発を学ぶチャンスを得る。
活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 現在の大学と県の協力プログラムをレビューする。 2 大学と県の協力のパイロットシステムをつくる。 3 大学と県で下記のような協力プログラムを作り提案する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 農村に学生が滞在して学ぶようなカリキュラム。 (2) 人々のためのコミュニティ・カレッジ：人々のための研修プログラム。 (3) 選ばれた地域でのパイロット・プロジェクト。 4 提案されたプログラムに対し、技術支援・資金支援を行う。 5 プログラムのモニターと評価を行い、ランキングを行う。
外部投入	実証型開発調査のような専門技術者と研修機会の供与を行う技術協力の可能性を検討する。

Project 6 コミュニティ・ビジネス開発

プロジェクトの枠組み	
上位目標	コミュニティ・ビジネス・リーダーを育成し、コミュニティ・ビジネスの経営や販売技術を開発し向上させる。これにより、農村経済の発展を図る
プロジェクト目標	<p>以下により、コミュニティ・ビジネスの経営と販売技術を開発し向上させる。</p> <p>(1) 人々を動員するリーダーシップ、戦略的思考、ビジネスの経営技術、市場と情報指向を備えたコミュニティ・ビジネス・リーダーを育成するパイロット・プロジェクトを実施する。</p> <p>(2) 県の人材育成戦略とプログラム開発を行う。</p>
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 県のコミュニティ・ビジネス戦略がつくられる。 2 パイロット・プロジェクト地域でコミュニティ・ビジネス・リーダーが育成される。 3 パイロット・プロジェクトの経験を通じて、コミュニティ・ビジネス開発プログラムが改善されて、普及される。
活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニティ・ビジネスと人材育成ニーズをレビューし評価する。 2 県のコミュニティ・ビジネス開発戦略を策定する。 3 以下のコンポーネントの組み合わせからなるコミュニティ・ビジネス・リーダーを育成するパイロット・プロジェクトを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) リボルビングファンドへの低利の資金援助。 (2) ビジネス技術のアドバイスサービス。 (3) 経験を共有し、ネットワークを作るため農村ビジネスを支援する人材育成プログラム (4) 地域の（潜在）リーダーがアクセスできる情報ネットワーク・ハブの設立。 (5) 変化する需要に応じた経営やビジネス技術をアップデートし続けるシステムの開発。 (6) 地域の需要に応じた研究開発とコミュニティ・ビジネスの事例分析。 (7) ビジネス開発のリーダーに対する技術助言を行う政府職員の能力向上。 4 パイロット・プロジェクトのモニタリングとレビュー。 5 パイロット・プロジェクトの結果を、コミュニティ・ビジネス開発プログラムの改善にフィードバックし、プロジェクトを広い範囲に普及させる。
外部投入	実証型開発調査のような専門技術者と研修機会の供与を行う技術協力の可能性を検討する。

Project 7 農村経済のための職業訓練機関の能力開発

プロジェクトの枠組み	
上位目標	職業訓練機関は需要に合うように制度改革が行われ、これにより農村の将来のリーダーを供給し、農村経済の発展に寄与する。
プロジェクト目標	<p>職業訓練機関が地域の需要に合うようになシステムとなるように制度構築をする。</p> <p>(1) 職業訓練機関の地域リーダーの能力開発を行う。</p> <p>(2) 地域の需要をみとす方法を学ぶ。</p> <p>(3) 農村経済の将来のリーダーを供給する。</p>
成果	<p>1 パイロット・プロジェクトにて職業訓練機関の能力開発が行われる。</p> <p>2 将来のリーダーが育成される。</p> <p>3 需要に応じたサービスへの戦略がつくられる。</p>
活動	<p>1 準備段階</p> <p>(1) プロジェクト・マネジメント・ユニットの設立。</p> <p>(2) 現存のシステムのレビュー</p> <p>(3) 事前調査の実施</p> <p>2 現状分析段階</p> <p>(1) パイロット・プロジェクトを実施する地域を特定する。</p> <p>(2) 学生のニーズと農村セクターのニーズをレビューする。</p> <p>(3) 既存の職業訓練機関をレビューして制約要因と能力開発のニーズを特定する。</p> <p>(4) 鍵となる人材を、日本研修を行い日本の経験を調査しタイへの示唆を分析する。</p> <p>(5) 可能性のある戦略、実施計画とシステムが機能するプログラムを策定する。</p> <p>(6) 生徒に対する現在のプログラムを改善するための計画をつくる。</p> <p>3 パイロット・プロジェクト段階</p> <p>(1) 提案されたシステムに基づきパイロットプロジェクトを実施する。</p> <p>(2) パイロットプロジェクトの結果をレビュー、分析する。</p> <p>4 戦略策定段階</p> <p>戦略を修正し、実行可能なシステムとプログラムをつくる。</p>
外部投入	実証型開発調査のような専門技術者と研修機会の供与を行う技術協力の可能性を検討する。

Project 8 自立のための基礎教育のカリキュラム開発

プロジェクトの枠組み	
上位目標	地域のイニシアティブによりカリキュラムが開発され、将来の地域リーダーの基礎をつくり、農村経済の発展に寄与する。
プロジェクト目標	<p>地域のイニシアティブにより初等教育のカリキュラム開発を行う。これにより将来のリーダーの基礎を作る。</p> <p>(1)カリキュラムが開発のための県の人材の能力を向上する。 (2)地域のイニシアティブにより初等教育のカリキュラム開発を行う。 (3)将来のリーダーの基礎を作る。</p>
成果	<p>1 県の人材の教育計画能力が向上される。 2 地域のイニシアティブにより初等教育のカリキュラムが開発される。 3 将来のリーダーが育成される。</p>
活動	<p>1 準備</p> <p>(1)プロジェクト・マネジメント・ユニットの設立。 (2)現状のレビュー (3)事前調査の実施</p> <p>2 分析</p> <p>(1)プロジェクトを行う地域を特定する。 (2)カリキュラム開発のニーズをレビューし評価する。 (3)カリキュラム開発のための鍵となる人物を訓練する。 (4)カリキュラムを開発する。</p> <p>3 実施</p> <p>(1)新しいカリキュラム導入のプロジェクトを実施する。 (2)プロジェクトの結果のモニターとレビューを行う。</p> <p>4 フィードバック</p> <p>(1)プロジェクトの結果をフィードバックし、全国に適用できるカリキュラム開発システムの改善を行う。</p>
外部投入	実証型開発調査のような専門技術者と研修機会の供与を行う技術協力の可能性を検討する。

JICA